

平成30年度事業報告書

社会福祉法人 緑友会

目 次

法人本部 ・ はじめに	3
役員会（理事会・評議員会）	3-4
法人運営状況	4-7
役員 特記事項 要件	4-7
職員人事 入退職	8
職員配置状況	9
職員研修（1 外部研修）	10-12
職員研修（2 法人研修）	13
職員研修（3 特養内部研修）	13
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	14
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	15-17
防災訓練	18
小川ホーム	19-34
1. 入所者の状況	19-22
2. 処遇の状況	23-29
3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉	29
4. 各係	29-31
5. 栄養・給食関係	31-34
短期入所生活介護	35
小川ホームデイサービスセンター	36-39
1. 月別実績	37
2. 要介護度・年齢別利用者数	37-38
3. 移動方法別利用者数	38
4. 地域別利用者数	38-39
5. 行事	39
小川ホームホームヘルプサービス	40-42
小川ホーム介護計画センター	43-45
地域包括支援センター小川ホーム	46-52
1. 月別実績	48
2. 要介護度分類	49
3. 相談実績	49-51

はじめに

平成28(2016)年3月改正社会福祉法の成立に伴い、緑友会も定款変更を行い、平成29(2017)年から30(2018)年にかけて評議員会を再開し、評議員選任委員会を設置して対応してきた。理事会の役割も法人各事業により関わるように求められ、理事長、業務執行理事の専決事項が明確化されて日常業務にこれまで以上に目配り気配りを要する事態になって来ている。

緑友会は平成7年高齢者福祉事業を開始、地域の信頼を得て着実に歩んできており、今後を見据えて利用する高齢者尊重を第一に置いてソフト、ハード両面での点検、改善を図っており、平成30(2018)年度には働くスタッフの環境待遇、健康を配慮しつつバランス良く施設機器類の整備をする方向性を打ち出した。

法人本部

○役員会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題(概要)
90	理事会 平成30年5月29日(火曜日) 17時15分～	出席 理事6名 監事1名 欠席 監事1名	第1号議案 補助金及び高額な取引に関する承認案 第2号議案 平成29年度 事業報告書(承認案) 第3号議案 平成29年度 計算書類(貸借対照表及び収支計算書、及び付属明細書)及び財産目録(承認案) 第4号議案 本決算における積立金、積立資産に関する承認案 ①施設・設備整備積立 ②職員処遇積立(介護職員) ③職員処遇積立(非介護職員) 第5号議案 福祉充実残額(マイナス)の承認 第6号議案 平成29年度事業に関する監事監査報告 及び 資産証明額・資産登記の確認(承認案) 第7号議案 評議員会開催についての決議(定款12条、施行細則6条による定め) 第8号議案 平成29年度決算における積立資産の取り崩しに関する案 ①施設・設備整備積立資産 ②職員処遇積立資産(介護職員) ③職員処遇積立資産(非介護職員) 第9号議案 りそな総合研究所追加契約 職員に対する訓練と説明 第10号議案 第三者委員選任決議 第11号議案 運営規程の変更 8月以降の利用料3割負担部分の追記
15	評議員会 平成30年6月19日(火曜日) 18時00分～	出席 評議員6名 理事2名 監事2名 欠席 評議員1名	第1号議案 議長の互選 第2号議案 議事録署名人選出 第3号議案 補助金及び高額な取引に関する報告案 第4号議案 平成29年度 事業報告書(報告案) 第5号議案 平成29年度 計算書類(貸借対照表及び収支計算書、及び 付属明細書)及び財産目録(承認案) 第6号議案 本決算における積立金、積立資産に関する報告 ①施設・設備整備積立 ②職員処遇積立(介護職員) ③職員処遇積立(非介護職員) 第7号議案 福祉充実残額(マイナス)の報告(承認案)

			第8号議案 平成29年度事業に関する監事監査報告 及び 資産証明額・資産登記の確認（承認案） 第9号議案 平成29年度決算における積立資産の取り崩しに関する案（報告案） ①施設・設備整備積立資産 (1) ダイキンエアコン工事 (2) 2階冷温水系空調室内機改修 ②職員処遇積立資産（介護職員） ③職員処遇積立資産（非介護職員） 第10号議案 第三者委員選任決議に対する意見伺い 第11号議案 理事1名理事交代についての議題
91	理事会 平成30年8月 1日	理事6名 全員書面 決議	第1号議案 業務執行理事選任案
92	理事会 平成31年1月2 5日（金） 15時15分～	出席 理事6名 欠席 監事2名	第1号議案 補助金交付決定及び高額な出納（承認案） 第2号議案 平成30年度第1回補正予算案 第3号議案 平成31年度業務委託指名競争入札実施に関する案 業務内容 給食サービス提供業務委託契約 洗浄業務付き寝具類の賃貸借契約 建築設備年間保守管理契約 第4号議案 規定の改定および制定（案） 第5号議案 ベトナム留学生奨学金申請に関する保証人について
93	理事会 平成31年3月2 6日（火） 13時～	出席 理事6名 監事1名 欠席 監事1名	第1号議案 補助金交付決定及び高額な出納について（承認案） 第2号議案 平成31年度 事業計画書（案） 第3号議案 平成31年度 収支予算（社会福祉法人会計基準による）（案） 第4号議案 平成31年度 業務委託指名競争入札の実施報告・契約に関する案 第5号議案 平成31年度 設備機器備品購入計画案 第6号議案 平成31年度 役員等の賠償責任保険の加入に関する案

○評議委員

下記の評議員7名各氏は変化なく引き続きお勤めいただいている。平成30年6月19日に評議員会が開催され、平成29年度の決算に関する議案の決議をして頂いている。

任期は平成29年4月1日から令和2年度決算に関する、令和3年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までである。

評議員 赤木 真 出竿章雄 栗田正夫 澤田尚敏 田中信明 土川洋子 檜山則明

○理事・監事

下記の役員の内、白石欣彦氏は平成30年7月31日を以て退任され、替って小林美穂氏が着任している。これ以外の役員7名各氏は変化なく引き続きお勤めいただいている。

任期は平成29年6月16日から平成30年度事業に関する、令和元年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までである。

理事長 菅野徹夫
 業務執行理事 小林美穂（着任）
 理事 市東和子 関谷栄子 高木好男 増田英男
 監事 基太村壽三郎 森杉美保
 業務執行理事 白石欣彦（退任）

○介護保険改正、介護予防・日常生活支援総合事業、行政庁移管

小平市では平成28年3月1日から総合事業がスタートしており、当法人でも通所介護及び訪問介護において「みなし」は「国基準型」サービスに変えて提供を行っている。平成30年度から地域行政にサービスの所管が移管され、その上で「小平基準型」サービスの新展開を行う予定であったが、小平市は要支援者の総合事業への全面移行を行わなかった。当デイサービスでは総合事業の展開に備え、人員配置を既にしてきたことから、要支援者の利用拡大をできなかった事は、事業活動収支の上で大変厳しい結果となってしまった。

一方ホームヘルプでは、市の研修を修了したヘルパーが総合事業のヘルプを担う事になっているが、介護ヘルプと同様で働き手の確保が難しく、地域の援助ニーズを支えきる事は難しくなってしまった。

○実地指導

所管となった小平市より平成30年12月3日に実地検査が、行政職員小平市8名、東京都職員1名、東京都福祉保健財団2名により実施された。

法人検査では①評議員会の招集日限、②理事会での決議、招集、確認事項、報告の方法、③賞与引当金の計上する事を指導され改善を図っている。

サービス検査では①避難誘導経路、②職員腰痛検査、③報酬加算挙証の保存、④サービス計画の承認方法と立案日程、⑤身体拘束に関する研修の方法、⑥情報活用の承諾方法、⑦訓練室用途変更の届出、⑧通所介護計画とケアプランの整合、⑨通所サービス提供記録の方法を指導され、それぞれ改善し報告及び関連する届出を提出した。

○労働基準監督署からの指導

働き方改革の一環として労働基準監督署からのヒヤリングがあり、九段下の本署に出向き資料提出と現況説明を行い、指導に従って規則の改正と更新された法制度の説明強化を行ってきている。主に非常勤職員が常勤になるための広報と推進、あらゆるハラスメントに対する規定とその見直し、労働相談窓口の強化について誘導があり、これらの対策をしている。

○福祉サービスの第三者評価の受審

平成30年8月10日から10月26日にかけて、入所者への聴き取り調査、職員及び管理者への分析シート調査等を実施した。調査機関は新たに一般財団法人 日本薬事法務学会と契約し、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表されている。

○協力医療機関と嘱託医師

平成30年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪により診療等を実施した。

みなみだい 南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	
小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師	
島田療育センターはちおうじ 整形外科 菅野徹夫医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 山田克浩医師

○労働と衛生委員会

各部門の職員から業務に対する要望や不安の声を聴くために、委員を増員して検討を行った。ストレスチェック・ストレス発散(アンガーマネジメント)・定期健診・予防接種・防災訓練・感染予防対策・職場のハラスメント予防対策・残業の軽減対策・職場環境の改善について検討している。腰痛検査については、定期巡回健診の際に同日に行える様改善した。協会けんぽの補助制度を活用し、より多くの職員が女性疾患予防や節目健診を受けられるようになり、オプション検査も希望で行えるようにした。体調不良の職員には産業医への相談機会を提供し、引き続き労働できるよう援助を行っている。

○インフルエンザ・ノロウイルス等の感染対策

インフルエンザの流行に備え、特養利用者及び職員全員を対象に南台病院に委託し、11月21日、28日、12月5日の3日間に下山医師の来訪時に予防接種を行った事で、大きな感染はなかった。

またノロウイルス対策として、一年を通しリバルス希釈液他による噴霧・拭き上げの感染予防策の実施を行ってきた結果、発生を抑えることができている。

○介護人材不足と外国人留学生制度

介護人材は国内的に依然として不足しており、折込広告・フリーペーパー・インターネット求人媒体を使い、口コミも合わせて職員募集をしているが、職員の補充には平均2ヶ月程度の時間を要しているのが実情である。NPO法人ひとりとみんなと連携を行い、7月にベトナム人留学生一名を迎えることができ、来日後日本語学校に就学しながらパート職員として小川ホームとデイサービスセンターで就労している。年度末までに必要な日本語を習得し、平成31年度から技術を学ぶため、介護専門学校への進学も決まっており、介護福祉士資格取得の後、当面常勤職員として小川ホームへの就労が予定されている。

○訪問時の安全性と機動力の拡大

地域包括支援センターの訪問件数の増加に伴い、開設以来の訪問車両マーチを廃車し、安全運転補助機能を搭載した日産デイズを平成31年3月に購入した。

○文書管理

当施設の所管が近年小平市となり、市の指導に従って文書の保管年限をこれまでの2年から5年に延長することとなっている。このことで施錠できる書類の保管場所の拡張が必要となり、フロアごとに施錠保管庫の新設を行った。

○人事評価制度の更新

当法人では平成14年に人事考課を導入し運用していたが、人材不足のこの時代に、よりマッチさせる必要があることから、当時制度構築を行った「りそな総合研究所」に再度委託して、人事制度の再編成を行った。検討に先立ち意識調査を全職員に行い、そこで明らかになった「入職から5年の職員」「6年から10年の勤続者」の意識を反映させ、制度の更新を行うこととした。職能給、勤続給のバランスを再考し、努力で得た業務手腕の成長期に合わせ、等級と号俸給面で適切な評価制度作りを目的として検討を行った。検討委員会は白石施設長を中心に、高木理事、小林副施設長、高橋事務長、野島課長、りそな総合研究所職員2名で構成し、次表の日程と内容を検討した。

最終的に整備された人事評価制度は、7月に職員に向けて説明会を2回実施した。また

評価する立場の主任以上の職員に対しては、8月に3回シリーズの評価者研修会を開催し、個別差の発生しない評価ができるよう訓練を行った。

	実施日	主たるテーマ
第1回	4/4	①職種別等級基準書案の検討②目標チャレンジ・研修管理シートの修正事項の有無について意見交換③人事評価表の叩き台検討
第2回	4/13	①職種別等級基準書修正案の検討②目標チャレンジ・研修管理シートの修正内容確認③人事評価表の叩き台検討
第3回	4/24	①職種別等級基準書再修正案の検討 ③人事評価表の修正案の検討④賃金制度案の検討⑤昇格基準の修正の必要性の有無を検討
第4回	5/10	①職種別等級基準書最終案の検証②目標チャレンジ・研修管理シート 修正案 検討③人事評価表の修正案の検証④賃金制度修正案の検討・移行試算の検証⑤昇格基準の修正案の検討
第5回	5/24	①職種別等級基準書最終案 確定②目標チャレンジ・研修管理シート 修正案 確定人事評価表 最終案 確定 賃金制度再修正案の検討・移行試算の再検証⑤昇格基準の最終案の検討
第6回	5/30	②目標チャレンジ・研修管理シート 修正案 検討③人事評価表修正案 検討④賃金制度修正案の検討・移行試算の検証⑥モデル賃金表の検討⑦中途採用者の格付け案検討⑤昇格基準の修正の必要性の有無を検討
第7回	6/13	①職種別等級基準書修正案の検討②目標チャレンジ・研修管理シート 最終案 検討③人事評価表修正案 再検討④賃金制度 最終案の検討・移行試算の最終検証⑥モデル賃金表の再検討⑦中途採用者の格付け案検討⑤昇格基準の修正の必要性の有無を検討/昇格基準の修正案の検討
第8回	6/20	①職種別等級基準書修正案の再検討③人事評価表最終案 検討⑥モデル賃金表の確定⑦中途採用者の格付け法確定
第9回	7/3	①職種別等級基準書 最終案 確定③人事評価表最終案 確定⑥モデル賃金表の確認
第10回	7/11	①職種別等級基準書 最終案 確定③人事評価表最終案 確定⑧給与規程・人事考課規程・目標管理制度運用規程・職能資格制度規程の修正案 検討⑨職員説明会の実施内容・配布資料等 検討
第11回	7/17	⑨職員説明会の実施内容・配布資料等 確認
第12回	7/24	⑨職員説明会の実施内容・配布資料等 確認
第13回	7/25, 27	⑩職員説明会 実施
第14回	8/2, 8/10, 8/20	評価する管理職の研修会

○地域高齢者の居場所づくり

おれんじカフェ、サロンみんなのおがわを気持ちよく楽しみに利用して頂くため、給茶機更新を実施した。

○設備改修と更新

経年劣化のある建物設備については、2階居室と地下1階用エアコン更新、全館の洗面台の排水管交換、2階3階の防火扉等の整備と修繕、1階の電源・水栓工事、ボイラーの制御部の改修を実施した。機器材の更新では、車いすの購入、介護ベッドの必要性の高い部門から行った。

○ボランティア

平成30年10月25日に例年通りボランティア感謝会をブリジストン会館で開催し、アトラクションも行い、約50名のボランティアさんへの感謝を表し意見交流を行った。今後更に地域と連携し、より多くのボランティアさんから手を貸していただき、新たな人材を確保できるよう実習生の受け入れ態勢を充実させる必要がある。このため、常々透明性を持って地域に根差す小川ホームであるために、次年度初頭から「地域連携・ボランティア・実習生」の専門委員会を組織するために、年度後半から準備を開始した。

法人職員人事（異動・昇格）

氏名	H30.8.1 任	免
小林美穂	業務執行理事 施設長 デイサービスセンター長 小川ホーム 管理者 地域包括支援センターセンター長	副施設長 地域包括支援センター センター長・管理者 主任介護支援専門員
鎌田英子	生活健康課 生活係 係長	生活健康課 生活係 主任
武藤光仁	生活健康課 生活係 主任	生活健康課 生活係
山田芽美	生活健康課 生活係 主任	生活健康課 生活係
杉本百合子	生活健康課 健康係 係長	生活健康課 健康係 主任
矢村恵美	生活健康課 健康係 主任	生活健康課 健康係 副主任
池高真一	デイサービスセンター 係長 通所介護 管理者 相談員	通所介護 主任 相談員
佐藤 実	介護計画センター 主任 主任介護支援専門員	介護計画センター 主任介護支援専門員
古川千鶴子	介護計画センター 介護支援専門員	生活健康課 生活係 副主任
野本琢也	デイサービスセンター課長 地域包括支援センター 管理者 相談員	デイサービスセンター係長 地域包括支援センター 相談員
平間亜矢子	地域包括支援センター 主任	介護計画センター 主任
永畑加代子	地域包括支援センター 主任介護支援専門員(三職種)	地域包括支援センター 介護支援専門員

職員入退職（常勤職員）

職種	配置	入職者	日付	職種	配置	退職者	日付
介護職員	特養	比留間夕果	H 30. 8. 1	介護職員	特養	小宮山恵子	H 30. 6. 30
介護職員	訪問	清川多恵子	H 30. 9. 1	施設長	法人	白石欣彦	H30. 7. 31
看護職員	特養	石川有紀	H 30. 9. 10	介護職員	訪問	宮崎由紀	H 30. 9. 30
介護職員	特養	松岡政雄	H 30. 11. 1	介護職員	特養	高塚義久	H 30. 10. 31
介護職員	特養	大坪稔浩	H 30. 11. 21	介護職員	特養	恩田 諭 非常勤となった	H 30. 10. 31
介護職員	特養	松本幸吉	H 31. 2. 1	介護職員	特養	松岡政雄	H 30. 11. 3
介護職員	特養	原田信治	H 31. 3. 1	介護職員	特養	大坪稔浩	H 30. 12. 1
				介護職員	特養	川野美紀	H 30. 12. 31
				看護職員	特養	石川有紀	H 31. 3. 25
				介護職員	特養	進藤麻帆	H 31. 3. 31

職員配置状況

平成31年3月31日現在

職 種	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)		通所介護		訪問介護	
	基準	定員	基準	定員	基準	定員
施設長	1	1 [内兼務1]				
事務員		2 [内兼務1]				
看護職員	3	3(2) [内兼務1]	1(1)	(3) [内兼務2]		
相談員	1	1	1(1)	4(2) [内兼務 4(2)]		
介護職員	24	23 (15)	6	4(13) [内兼務 3(2)]		
ヘルパー					9	4(19)
介護支援専門員	1	[兼務4]				
管理栄養士	1	1				
医師	必要数	(4)				
精神科医師	(1)	(1)				
歯科医師(訪問)	(1)	(1)				
機能訓練指導員	1	1 [内兼務1] (1)	1	1(2) [内兼務1 (2)]		
ライフワーカー		(10) [内兼務 (1)]				
業務員		(4) [内兼務 (1)]				
警務員		(6)				
専従運転士				(2)		
計	32 (3)	32 (44) [兼務8 (2)]	9(2)	9 (22) [内兼務8 (8)]	9	4(19)

職 種	居宅介護支援		地域包括支援	
	基準	定員	基準	定員
事務員			(1)	1
看護職員			1(1)	1(1)
相談員			2	2
介護職員				
ヘルパー				
介護支援専門員	6	5(3)	5(3)	5(3) [内兼務1]
管理栄養士				
医師				
精神科医師				
機能訓練指導員				
業務員				
計	6	5(3)	8(5)	9(4) [内兼務1]

※()は非常勤職員

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

※計は単純に表を合計しているため、実人の計とは一致しない場合がある。

職員研修

(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1日目)	その他 (2日目以降)
第24回北多摩認知症を考える会	北多摩認知症を考える会、エーザイ(株)	大野友紀	H30.2.6	
「精神疾患の有る糧への対応～知識を身につけて日々のケアマネジメントに活かそう!～」	小平市・小平市地域包括支援センター	佐藤実	H30.3.12	
認知症の早期発見・早期治療～知っておきたい認知症の今～	国立精神・神経医療研究センター病院認知症疾患医療センター	横山真希	H30.3.17	
平成29年度いま介護現場に必要なICT・介護ロボット導入促進セミナー	公益社団法人全国老人福祉施設協議会	野島邦義	H30.3.27	
介護実践講座「VR体験付き認知症講座」	ベネフィット・ワン	池田まゆ美	H30.4.21	
個別機能訓練計画書・通所介護計画書の書類と書き方	日本通所ケア研究会	池高真一	H30.4.28	H30.4.29
「地域でつながろうケアマネージャーの仲間たち」～参加から参画、実践力を持つために～	小平ケアマネ連絡会	上田典子・平間亜矢子	H30.5.17	
自立支援につながる住宅研修～基本を再確認し、本当に「使える」改修をしよう!～	小平市地域包括支援センター中央センター	大橋慧媛・池田まゆ美・宮永桃子・山岸栄子・大野友紀・小泉由美・永畑加代子・横山真希	H30.6.12	
若年性認知症に関する基礎知識・相談支援の流れ	東京都福祉保健局	横山真希	H30.6.18	
東京都地域包括支援センター職員研修(初任者研修)	東京都福祉保健財団	大野友紀	H30.6.20	H30.6.21
「ケアマネの困りごと」～私たちの抱える問題って?～	小平ケアマネ連絡会	上田典子・佐藤実・平間亜矢子・大橋慧媛	H30.7.11	
地域ケア会議の進め方～奈良県生駒市の取り組みの紹介～	東京都福祉保健局高齢者対策部在宅支援課	横山真希	H30.7.13	
健康づくり調理師研修会	多摩小平保健所	高原好子	H30.6.27	H30.7.3
健康づくり調理師研修会	多摩小平保健所	増田いづみ・福間邦子	H30.7.19	H30.7.27
我がまち 再発見 第2回	東京都社会福祉協議会センター分科会	中野香美	H30.7.30	
「利用者の意志決定を支えるIPW」	東京都介護支援専門研究協議会	永畑加代子	H30.8.4	
高齢者虐待防止研修	小平市	鎌田英子	H30.8.22	
東京都介護支援専門員専門研修課程Ⅱ	特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会	小林美穂	H30.8.29	H30.8.29 全5日間
「ケアマネジメント力を高める～実践に還元できる研究について～」	東京都介護支援専門員研究協議会	永畑加代子	H30.9.2	

「生活援助中心のプランを考える」	小平市ケアマネ連絡会	池田まゆ美	H30. 9. 13	
家族介護の在り方と地域の責任「認知症鉄道事故損害賠償裁判」から考える	白梅学園大学小平学・まちづくり研究所	加藤桂子	H30. 9. 14	
平成30年度感染症対策研修会	東京多摩小平保健所	杉本百合子	H30. 9. 19	
平成30年度第2回介護福祉士実習指導者講習会	公益社団法人東京都介護福祉士会	野島邦義・村山大輔	H30. 9. 19	H30. 9. 20 全4日間
小平市地域包括支援センターケアマネ交流会「地域資源を知ってケアプラン作成に役立てよう」	小平市地域包括支援センター	上田典子・池田まゆ美・大橋慧媛・古川千鶴子・宮永桃子・佐藤実	H30. 9. 21	
若年性認知症の基礎理論～病態から社会資源活用までを学ぶ～	東京都介護支援専門員研究協議会	永畑加代子	H30. 9. 29	
わたしのまちの再開発	わたしのまちのつくり方	中野香美	H30. 9. 29	
第26回統括ケアマネジメント事例検討会	一般財団法人オレンジクロス	佐藤実	H30. 10. 2	
心神喪失者医療観察法研修	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	横山真希	H30. 10. 5	
本当に体にいい栄養とはなにか？	多摩北部医療センター	池田まゆ美・加藤桂子・横山真希	H30. 10. 16	
小平市在宅医療介護連携推進協議会「終末期の食形態や摂取方法を学ぶ」	小平ケアマネ連絡会	佐藤実	H30. 10. 18	
ケアマネ交流会「終末期医療を健やかに過ごすには」～リビングウィルについて～	小川ホーム・けやきの郷	池田まゆ美・上田典子・宮永桃子・大橋慧媛	H30. 10. 18	
「身寄りのない方の支援について」	東京都社会福祉協議会	小林美穂	H30. 10. 19	H30. 10. 20
精神保健福祉研修(後期)「認知行動療法研修」	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	横山真希	H30. 11. 12	
精神保健福祉研修(後期)「アウトリーチ支援研修」	東京都立多摩総合精神保健福祉センター	横山真希	H31. 2. 12	
「食べるを支える」サポーター養成講座	Tokyo EAT	大橋慧媛・宮永桃子	H30. 11. 6	H30. 12. 8 全4日間
労働基準法等に関する基礎研修	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター研究室	長嶋弘樹	H30. 11. 12	
「自立支援ってなに？」～その人らしさを求めて・・・～	小平ケアマネ連絡会	平間亜矢子・上田典子・永畑加代子・佐藤実	H30. 11. 15	
アルコール依存の理解と支援～本人と家族に対する支援と介入のポイント～	東京都多摩小平保健所	池田まゆ美・宮永桃子・野本琢也・平間亜矢子	H30. 11. 15	
「糖尿病とともに生きる」を支える～変化のシグナルを見逃さない為の視点とは～	小平市地域包括支援センター中央センター	平間亜矢子・大橋慧媛・加藤桂子・古川千鶴子・山岸栄子・宮永桃子・佐藤実・永畑加代子	H30. 11. 16	
「人生の最終段階におけるリハビリとは？」	小平ケアマネ連絡会	平間亜矢子・永畑加代子	H30. 11. 19	
成年後見人等の実務	小平市社会福祉協議会	木上利恵子・小泉由美	H30. 12. 6	

介護予防 大交流会	東京都・小金井市	永畑加代子・横山真希・木上利恵子	H30.12.10	
ソーシャルワーク カフェ	東京都社会福祉協議会	高橋利枝	H31.1.12	
「リ・アセスメント支援シートを活用しての自己点検と振り返り作業」の実践	小平市地域包括支援センター中央センター	大橋慧媛・加藤桂子	H31.1.22	H31.2.15 全3日間
平成30年度高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団・高齢者権利擁護支援センター	野澤喜美子	H31.1.22	
高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団	上田典子	H31.1.23	
小平市ケアプラン研修「アンガーマネジメントを学ぼう」	高齢者支援課 地域支援	大橋慧媛・加藤桂子・古川千鶴子・山岸栄子・佐藤実・永畑加代子・大野友紀・中野香美・平間亜矢子	H31.2.1	
「ACP」から地域連携を考える	小平市地域包括支援センター中央センター	永畑加代子・平間亜矢子	H31.2.2	
社会福祉法人の地域における公益的な取り組み実践発表会	東京都地域公益活動推進協議会	野島邦義	H31.2.14	
自信を持ってケアプランを語ろう！	小平ケアマネ連絡会	上田典子・佐藤実	H31.2.14	
神経病棟講演会	東京都多摩小平保健所	宮永桃子	H31.2.15	
指定更新事業者研修会	東京都福祉保健局高齢社会対策部介護保険課	野澤喜美子	H31.2.20	
「パターン化していない認知症ケアのヒント」	東京都社会福祉協議会	池高真一	H31.2.26	
ふるフェッショナル！入浴ケアの達人育成研修	お茶の水ケアサービス学院	相原和典	H31.3.14	
在宅で暮らす高齢者への虐待防止・対策を学ぼう～支援者としての気づきの視点～	地域包括支援センター中央センター(市委託事業)	佐藤実・池田まゆ美・山岸栄子・古川千鶴子・加藤桂子・平間亜矢子・永畑加代子	H31.3.15	
住民の声をすくいあげるために、地域ケア会議を使ってみませんか？	東社協・東京都高齢者福祉施設協議会	中野香美・大野友紀	H31.3.20	

(2) 法人研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
異文化コミュニケーションの考え方 ～外国人職員を受け入れるにあたり、コミュニケーションの考え方を、ワークを通じて体験しよう～	秋山信悟 先生	41名	H30.8.7
カラダの設計図を理解して 簡単 楽～に 美しいカラダに近づく講座	黒須明美 先生	32名	H30.9.7
持ち上げない移動・移乗技術 ～利用者の自立と介護者の腰痛予防を目指して～	西方規恵 先生	69名	H31.1.31 H31.2.12

(3) 特養内部研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
利用者急変時の対応（緊急対応）	野島邦義	48名	H30.4.15～3日間
外傷・アザ・表皮剥離について考えよう （安全環境：1回目）	田倉巳幸	31名	H30.4月15～7日間
経管栄養について （喀痰吸引・経管栄養研修）	矢村恵美	25名	H30.5.20～4日間
食中毒（感染症研修：1回目）	杉本百合子	23名	H30.8.29～4日間
褥瘡予防研修（褥瘡予防）	杉本百合子	23名	H30.8.29～4日間
関節拘縮へのアプローチを考えよう （安全環境：2回目）	田倉巳幸	33名	H30.9.1～全7日間
認知症介護の視点とチームケア （認知症）	野島邦義	16名	H30.10.17～4日間
高齢者虐待の考え方と具体例を知ろう （身体拘束廃止研修：1回目）	鎌田英子	46名	H30.10.27～7日間
ノロウイルス・インフルエンザ （感染症研修：2回目）	杉本百合子	21名	H30.12.20、H31.1.21
身体拘束の理解と虐待・不適切ケア （身体拘束廃止研修：2回目）	鎌田英子	49名	H31.1.15～17日間
高齢者に対する身体拘束とは 身体拘束廃止：3回目	鎌田英子	49名	H31.2.24～18日間
看取りケア（看取介護研修）	杉本百合子	18名	H31.3.7～8日

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催しています。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

※研修未受講者に対するフォローアップ研修はOJTで個別に行っている。

年 月 日	H30年		H31年			
	8	9	1	2	2	3
	7	7	31	12	26	26
研修テーマ	異文化コミュニケーションの考え方	カラダの設計図を理解して簡単 楽～に美しいカラダに近づくと講座	持ち上げない移動・移乗技術～利用者の自立と介護者の腰痛予防を目指して～	持ち上げない移動・移乗技術～利用者の自立と介護者の腰痛予防を目指して～	高齢者虐待防止と権利擁護について	小平市ゴミ有料化・戸別回収について
講師： サービス提供責任者	秋山信悟	黒須明美	西方規恵	西方規恵	野澤喜美子	小平市環境部 資源循環課・ 松井清美
柏木あけみ				○	○	○
高原好子	○				○	○
広田裕子	○			○	○	○
松野智子	○			○	○	○
斉藤与志子				○		○
上條悦子	○			○	○	○
豊嶋尚美	○			○	○	○
増田いづみ	○			○	○	○
坂田しのぶ	○			○	○	○
鈴木今日子	○			○		○
廣田公雄						休み
森本由紀子				○	○	休み
丸山朗美	○					
加藤満子	○		○		○	○
加藤ななゑ					○	○
王影所				○	○	○
吉田つや子	○			○	○	○
福間邦子	○		○		○	○
丸山安三H30年11月～				○	○	○
夏山照美H30年11月～						○
野沢喜美子	○	○		○		
松井清美	○	○	○		○	
羽根ルミ子	休み	○	○			
宮崎由貴	○					
清川多恵子H30年7月～	○	○		○	○	

(5) 研修委員会 総評報告

平成30年度

研修委員会 総評報告

《総括》

研修課題の中で平成30年度は、優先的に取り組むべき研修課題の中で、3つの課題について取り組む事ができた。

○課題の1つ目として、「異文化コミュニケーションの考え方」

法人の社会貢献事業の一環として取り組んだ、外国人留学生の受入れである。在留資格・介護資格支援事業でベトナムからの留学生を受け入れる事になったが、当法人としても受入れるに当たり、施設長、副施設長が現地視察も行き、事務長を加え相当の準備をして行ってきた。

H30年7月からベトナム留学生を当施設が受け入れるあたり、受け入れる部署だけでなく、施設全体での共通理解を持つ為にこの研修課題を学んだ。

異文化コミュニケーションとの事で、何か特別な事をしなければならないかと構えていたが、実際は、上司が部下に対して行う又現場の先輩が後輩に行うOJTに他ならない。

業務の手順書を外国人にも解りやすい様に、言葉を言い換える必要があるが、基本は日本人と共通している事。OJTと手順書の活用により、相互理解をしていく必要がある事だという事を学んだ。

○課題の2つ目として、「カラダの設計図を理解して簡単、楽～に美しいカラダに近づく講座」

これは、特養・在宅共に重度の利用者の受入れが多くなる中で、職員の心身の負担も大きくなってきている。心身共にリラックスできるように、モチベーションの向上とセルフケアができるようにする為の講座で、実技も含めて学ぶ事ができた。講師からの解りやすい理論と実践を通して、いつもの研修とは違うリラックスできる研修でもあった。

骨格模型を使用しながら骨格の仕組みを理解して、正しい姿勢にする為には、本来どこの位置にあるべきなのか、又どのようにすれば適正な位置に骨格が戻り整うのかを、具体的な実践を通して学ぶ事ができた。正しい姿勢は健康（首、肩コリ、腰痛改善、予防）だけでなく美容にも通じている事もわかったので、職員の興味もあり、前のめりになる研修であった。研修報告では定期開催の希望も多くあった。

○課題の3つ目として、「持ち上げない移動・移乗技術」～利用者の自立と介護者の腰痛予防を目指して～

セルフケアを学んだ後に行った研修であった。現場職員の入れ替わりもあり、介護技術も進歩してきている中、古い考えのままであったり、資格があるなし等で介護技術のばらつきがみられたり、利用者の個別性におけるケアや介護技術が不足してる事が課題としてある為、できる力を最大限活用して介助ができるようになる事を目的として学んだ。

各部署からの多くの職員が参加してくれた。3つの基本原理やスライディングボード・スライディングシートを活用し、移動の負担軽減やトランスファーの方法等を具体的に体験し学んだ。

限られた時間の中で全ての職員は体験できなかったのは残念ではあったが、一つの考え方

としては有効なものであった。今後は、各部署ごとの研修に生かせればと思う。利用者個人の特徴を知る事で、個別性の介助をしていくと言う、職員側のできる事もあれば、特に特養の場合、施設備品（車椅子）が旧型のもので、アームレストの部分が跳ね上げ式でない為、職員の負担増にもなるので、備品の入れ替え等も検討していく事も課題としてある。このような対策も講じていく事も、国が社会福祉施設に求めている職員の腰痛予防対策として必要である。

今後も全体研修においては、法人の各部署での共通課題に対して研修を平成31年度も行っていきたい。

【外部講師を招いたOFF-JT研修】

第一回 法人研修

テーマ：異文化コミュニケーションの考え方

～外国人職員を受け入れるにあたり、コミュニケーションの考え方を、ワークを通じて体験しよう～

日 程：平成30年8月7日（火）

時 間：18時～20時

講 師：株式会社ウイ代表 秋山信悟 先生

参加者：計41名

<実施報告>

現在、日本の労働者人口は減少傾向にあり、様々な職種で外国人労働者の受入れを進めている。当法人においても外国人介護留学生を受け入れているが、言葉や文化の違いからコミュニケーションを取る難しさを感じているところである。

本研修では、自分とは異なる文化を持つ相手を理解し、心通うコミュニケーションの方法について、相手の考え方や立場からものをみれる能力や自分と違う価値観、常識を持つ人と付き合い、観察・確認することの大切さについて学ぶことができた。

講義ではコミュニケーションについて、自身の不安や困りごとを一つひとつ分析しながら自分を理解し、その上で相手との対話を中心に伝え方と聞き方のポイント、リフレーミングやOJTの手順・原則等について理解を深めていき、ただ単に「伝える」のではなく「伝え合う」という視点の重要性について気付くことができた。

また今回の研修では、他国の人とコミュニケーションをとる時は様々な違いも絡むため、より複雑な異文化に直面するが、でもそれは「違い」の種類が多いか少ないか、大きい小さいの差であって、本質的には世代間の違いと変わらないものだと、私たちの認識を改めることができる研修だった。

第二回 法人研修

テーマ：カラダの設計図を理解して 簡単 楽～に美しいカラダに近づく講座

日 程：平成30年9月7日（金）

時 間：18時～20時

講 師：ボディハーモニーフォレスト 美容矯正師 黒須明美先生

参加者：計32名

<実施報告>

対人援助が基本となる福祉の仕事において、職員の健康状態はサービスの質に重要な役割を果たしている。それは身体的要因だけではなく、心理面も強く作用する。そのため本研修では、職員の心身の健康維持増進を目的にカラダの仕組みと心理的作用について理論的に学び、コンディションを改善するため、筋ゆる・頭蓋骨から足先までの全身の美容筋骨格矯正の具体的な方法について理解を深めていった。

講義では、関節の硬さや筋肉の動きのバランスの悪さ、日常生活習慣や精神的ストレス等々、その影響は姿勢に現れること。悪い姿勢は見た目から与える印象や、肩こりや腰痛などの身体の不調、視線が下がり視野が狭くなる他、集中力にも影響し、仕事のパフォーマンスが低下するなど、姿勢を調整するため講師が職員一人ひとり異なる原因に対して、適切な改善方法を実践し、多くの職員がその効果を実感することができた。

今回参加した職員からは、「姿勢についての正しい知識を持つ事で、心身の状態が変わった」「座骨を開く講義は目から鱗の情報でした!」「職員の健康は、職場の雰囲気が大きく作用すると思う」「同じ講師の企画で他の研修して欲しい」など、今回の研修報告書をまとめるにあたり、本研修の充実度が見て取れる。

最後に講師の「“^{しつけ}躰”は自分のカラダを美しく飾り続けることができる」という言葉の通り、今後自分の健康を守る上では自分との向き合い方が重要になる。身体の健康は日頃のケアが極めて大切であるということを改めて考えさせられた研修であった。

第三回 法人研修

テーマ：持ち上げない移動・移乗技術～利用者の自立と介護者の腰痛予防を目指して～

日 程：平成31年1月31日（木）

平成31年2月12日（火）

時 間：18時～20時

講 師：白梅学園大学・白梅学園短期大学 家庭・地域支援学科 西方規恵先生

参加者：計69名

<実施報告>

介護者において腰痛は最も罹患しやすい疾患で、予防については労働衛生分野においても重要な課題となっている。当施設でも腰痛に悩まされている職員は少なくない。そのため本研修では、利用者・介護者にとって負担のない介護技術の習得することを目的に、北欧の移乗技術を中心とした具体的な手技について研修を行った。

講義では、利用者の自立を促すために身体のメカニズムや動かし方について学び、実際の介助場面を想定したベッドへの移乗や車椅子上のポジショニング等、様々な技術を体験しながら理解を深めていった。また平成25年に国の腰痛予防指針が改定されたことにも触れ、管理者側の労働環境に対する管理体制についても、職員を守る上では必要不可欠であるということも再認識できた研修だった。

今後は職員一人ひとりが、利用者の力を最大限活用しながら自立を促し、腰痛をひき起こさないケアや利用者の二次的障害を引き起こさないケアについて考えながら、管理者側は本研修のように職員の働き方を変えるための体制を更に進め、腰痛は防ぐことができるという意識、働き方を変えて自らの健康も職員の健康も守るという風土を広げていきたい。

(6) 防災訓練

実施日	訓練内容	参加者
平成30年8月23日 10時00分から 21時00分まで	○防災照明への点灯訓練を実施。当日はビヤガーデン実施日でもあり、実際に灯光への送電訓練を実施。また、ガスボンベ・鉄板・コンロ・水槽・テント等々を使用し震災炊出し訓練も実施。ビル管理を委託している事業者も同席し、訓練に参加した。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 51名
平成30年10月17日 14時20分から 15時00分まで	夜間想定総合訓練 ①特養では夜勤の時間帯に地震発生の後出火したことを想定し、初期消火を早期に行った。認知症等で中重度介護を要する利用者の安全誘導、及びタオルケット仮設担架等を用い平行移動の避難訓練を行った。消火行動を訓練し、災害時活動等を日常から行えるように訓練を実施した。また、有事に備え確実に機材取扱いができる様、消火栓で実放水訓練を行った。②デイサービスにあつては日中を想定し、利用者を介助しながら誘導と点呼の実施を行った。センターは一階で避難しやすいが、転倒によるケガ等の二次的事故にならないように配慮しながら平行移動の避難を行った。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 計24名 利用者(特養)10名 (デイ)15名
平成30年10月23日 9時00分から 16時30分まで	停電想定発電訓練 ○震災後の復旧及び維持活動(BCP)を目的とした訓練として、平成24年に都の補助で配置を行った発電機を用い、災害照明・ケアコール・医療機器・電話交換主装置への送電、及びインターネット回線確保のための送電とPC動作確認について、燃料の補給から送電まで、電源確保訓練を実施する。また通信についてはトランシーバーを使用して、訓練者間のコミュニケーションを実施した。当日は電気設備点検の実施日でもあり、実際に外部電源の喪失の中で、発電機を運転し給電及び灯光等の送電と、バッテリーライトで補助照明を行う訓練を実施した。	防火管理責任者 を含む5名
平成31年3月27日 14時00分から 15時30分まで	夜間想定総合訓練 ①特養では夜勤者しか居ない時間帯に地震発生の後出火したことを想定し、初期消火を早期に行い、一方では転倒した障害物を回避しながら、認知症等で中重度介護を要する利用者の安全誘導、及び仮設担架等を用い平行移動の避難訓練を実施した。経験の浅い介護職員に重きを置き、特に注意が必要な特養での対策をフリップ事例を説明し視覚的理解ができるように研修を行った。②デイサービスにあつては日中を想定し、利用者を介助しながら誘導と点呼の実施を行った。センターは一階で避難しやすいが、転倒によるケガ等の二次的事故にならないように配慮しながら中通路を出て玄関で集合する平行移動の避難を実施した。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 計20名 利用者(特養)9名 (デイ)19名

指定介護老人福祉施設 小川ホーム
事業報告

運営概況

今年度の事業目標も「利用稼働率98%以上確保」を設定したが、93.8%と地域の方々に有効に活用して頂くことができなかった。その主な原因としては、重度虚弱化に対応するための体制が整備できなかったことが挙げられる。

事実、特別養護老人ホームは、寝たきりや認知症の入所者が年々増加している。さらに今年度の入院者数は55人と前年対比で9人も増加し、その大半が肺炎（誤嚥性肺炎も含む）や尿路感染・腎盂腎炎等疾患で、病気に対する全身の抵抗力や筋力が低下している入所者も増えている。こうした入所者の生活を支える上では、職員の力が必要不可欠であるが、人員配置基準を超える職員を配置しても現状は厳しく、業務体制の見直しやケアマネジメント体制の充実も図ることが難しかった。その結果、新規入所者においては入所検討の段階で難渋する機会も増え、円滑な入所を進める上で大きな障害となっている。なお、新規入所においては、それ以外の問題として医療の引継ぎに時間を要することも課題となっている。

このように施設は様々な課題が複雑に重なり合い連鎖しているが、今後も地域に求められる施設として、その存在を示していく上では、人材の確保に効果的な働きかけと定着に向けた取り組み、チーム統制を取れるリーダー層の強化の必要性を強く感じている。

特別養護老人ホームは今後更に重度化された入所者受入れの一途を辿る。身体機能や認知機能の低下、摂食機能の低下により、事故や体調を崩す方も増え、今まで以上に利用者の入退所も増えることが想像できる。稼働率という目標は毎年度設定している目標だが、今年度も含め5期連続して達成することが出来ていない。その結果において特別養護老人ホームの幹部は真摯に受け止め、次年度は実現可能なところから改善を図り、職員と共に地域に還元できる施設づくりを目指し、取り組んでいきたい。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	70	73	72	74	73	74	75
延べ人数	1,986	1,999	2,101	2,165	2,213	2,088	2,159
1日当り	66.2	64.5	70.0	69.8	71.4	69.6	69.6
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※29年度
件数	73	71	74	75	74	878	885
延べ人数	2,071	2,050	2,068	1,973	2,129	25,002	25,462
1日当り	69.0	66.1	66.7	70.5	68.7	69.5	69.8

※ 以下統計資料は平成31年3月31日現在の入所者を対象
 ※ 措置制度からの継続入所者は、在籍しておりません

(1) 介護保険者（市・区）別入所者

	男性	女性	計
小平市	12	57	69
他市区	0	3	3
計	12	60	72

(2) 生活福祉受給状況

種別	男性	女性	計
全面生活保護受給	0	0	0
医療費単独給付受給	1	5	6
計	1	5	6

(3) 入所者の要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	現入所者	
	男性	女性
要介護 1	0	1
要介護 2	0	4
要介護 3	2	21
要介護 4	4	20
要介護 5	6	14
計	12	60
介護度平均	4.3	3.7
総員介護度平均	3.8	
介護度 4・5 の占める割合	61.44%	

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1	生活自立	0	0	0
J2		0	2	2
A1	準寝たきり	1	18	19
A2		3	6	9
B1	寝たきり	3	10	13
B2		3	15	18
C1		1	5	6
C2		1	4	5
計		12	60	72

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	2	2
I	1	1	2
II a	1	2	3
II b	0	8	8
III a	4	22	26
III b	1	16	17
IV	4	5	9
M	1	4	5
計	12	60	72
III a以上の占める割合		79.1%	

d. 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	0	0	0
65～69	0	0	0
70～74	2	0	2
75～79	3	4	7
80～84	3	9	12
85～89	3	20	23
90～94	0	18	18
95以上	1	9	10
計	12	60	72
平均年齢	81.0	88.7	87.4

(4) 入所理由

	男性		女性		計	
	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由
身体的	1	6	11	8	12	14
精神的	1	2	23	18	24	20
経済的	1	1	2	2	3	3
家庭的	9	3	24	32	33	35
その他	0	0	0	0	0	0
計	12	12	60	60	72	72

(5) 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
自宅から入所	3	26	29
老人保健施設から入所	3	22	25
老人福祉施設から入所	1	0	1
病院及び療養型から入所	4	7	11
その他入所（有料、グループホーム等）	1	5	6
計	12	60	72

(6) 年度内の入退所者件数

	入所		計	退所		計
	男性	女性		男性	女性	
要介護3	1	14	15	0	4	4
要介護4	1	2	3	2	5	7
要介護5	3	3	6	5	7	12
その他	0	1	1	0	2	2
計	5	20	25	7	18	25

※ 入所：その他の女性1名は、入所時点は要介護4。現在は2である。

(7) 退所理由

理由	男性	女性	計	
家族引取り	0	1	1	
他施入所	0	0	0	
長期入院・療養型	2	5	7	
施設内死亡	看取	0	2	2
	検死	0	2	2
救急搬送後死亡	0	1	1	
入院後死亡	5	7	12	
計	7	18	25	

(8) 障害者手帳取得状況

種別	人数
1級	1
2級	2
その他の障害	6
手帳なし	63
計	72

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄

プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日 中			夜 間		
	男	女	計	男	女	計
自立	0	11	11	0	13	13
トイレ誘導	3	30	33	2	2	4
ポータブル介助	0	0	0	0	7	7
尿・便器介助	0	0	0	0	0	0
オムツ	9	16	25	10	37	47
その他	0	3	3	0	1	1
計	12	60	72	12	60	72

※ さりげなく、暖かく、しかも注意深くプライバシーを守ることを重視し、個々にあった援助を行っている。日々の対応で尿、便意がある方をケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように、職員の意思統一を図り努めている。また、コストダウンも考え、数社の紙おむつサンプルを取り寄せ、品質と価格の検討も行った。今後も常に良い方法を考慮していきたい。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	0	9	9
一部介助	2	12	14
全介助	10	39	49
計	12	60	72

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じて介助する方

全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	0	13	13
一部介助	4	18	22
全介助	8	29	37
計	12	60	72

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）

全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア

口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		0	14	14
要 介 助	声かけ	4	9	13
	うがい	0	0	0
	義歯	4	16	20
	綿棒	0	0	0
	歯磨	3	12	15
	コットン	1	9	10
計		12	60	72

声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す

洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ，うがい）を実施

義 歯 職員が歯ブラシで洗浄，うがい介助，夜間はポリデント洗浄

綿 棒 歯茎の弱い方，歯ブラシを痛がる方

歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方

ガーゼ ガーゼにて洗浄

(5)入浴

清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいた
だけよう実施している。

項目		男	女	計
自立		0	1	1
介 助	一部介助	3	25	28
	全介助	6	23	29
	清拭	0	1	1
	機械浴（ストレッチャー）	3	10	13
計		12	60	72

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方

全介助 疾患により不十分な方

※ 清潔保持と心身のリラックスのため、月～土曜日の入浴日を設定して、利用者1名に対し週2回の入浴を実施している。入浴チェック表に基づき状況を把握し、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてきている。

(6) 周辺症状

安全確認のもとにできる限り規制せず、自由を尊重し変化の観察を行っている。

項 目	男	女	計
徘徊	1	1	2
異食	0	2	2
暴力	0	3	3
暴言・大声	2	3	5
帰宅願望	0	1	1
不潔行為	1	10	11
訴え	0	7	7
収集	0	10	10
自傷行為	0	0	0
拒絶	0	2	2
夜間せん妄	0	16	16
計	4	55	59

【重複行動含む複数回答】

※ 当ホームにおいては、「周辺症状は心の声」と捉え、日常生活介護にあたる際は「心の声」に耳を傾け、個人の流れに合わせた対応を行っている。

(7) 食事

暖かい雰囲気の中でゆっくり食べられるよう配慮し提供している。

項 目	男	女	計
自立	4	26	30
一部介助	6	20	26
全介助	1	9	10
経管栄養等	1	5	6
計	12	60	72

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

※ 食事は健康を維持するための栄養、毎日の活力のエネルギー源である。また何よりも日常生活の楽しみのひとつとなっている。その人に合った食事、その人の好む食事を目標にしてきざみ食や、ミキサー食などの加工をする他、食器などの工夫も行っている。「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化のある食事を提供しています。又、厚生労働省が定める、管理栄養士の配置、適時適温及び食事時間等の基準を満たして提供している。

※ なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導

残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項目		男	女	計
自立	歩行	1	3	4
	シルバーカー歩行器	0	6	6
	車椅子	3	13	16
要 介 助	誘導	0	2	2
	誘導(杖)	1	1	2
	車椅子(一部介助)	0	6	6
	車椅子(全介助)	7	27	34
	歩行介助	0	2	2
計		12	60	72

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける
 誘導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける
 車椅子一部介助 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける
 車椅子全介助 移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【健康状況】

(1) 定期診察状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	62 (106)	66 (111)	71 (105)	70 (101)	70 (101)	69 (95)	69 (110)
整形外科	11 (10)	12 (8)	13 (8)	11 (9)	10 (8)	11 (10)	10 (9)
精神科	31 (24)	31 (25)	36 (30)	36 (31)	37 (32)	38 (32)	36 (30)
歯科	59	60	61	64	45	28	57
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総数
内科	69 (94)	67 (96)	70 (94)	73 (92)	68 (94)	824 (1199)	2023
整形外科	7 (5)	13 (10)	11 (10)	12 (9)	9 (8)	130 (104)	234
精神科	32 (27)	32 (25)	34 (27)	30 (27)	29 (23)	402 (333)	735
歯科	65	46	43	48	65	641	641
						計 3633	

【診察のみ(診察処方)とで分けてカウント】

(2) 健康診断状況とインフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン接種

※ 定期健康診断は誕生月に1回実施

※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う（入院中接種者除く）。

希望者には南台病院下山医師による接種を実施。

- 季節型インフルエンザ接種者 64名
- 肺炎球菌ワクチン接種者 6名

(3) 外来受診状況

診療科	内科		脳神経外科		整形外科		皮膚科		眼科	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	30	144	1	8	5	24	2	20	0	9
診療科	泌尿器科		精神科		救急外来		その他			
性別	男	女	男	女	男	女	男	女		
件数	10	0	3	4	1	8	1	5		

(4) 受診先医療機関

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	192	一橋病院	10	東大和病院	10	公立昭和病院	11
多摩総合医療センター	1	国立精神神経センター	9	セントラルクリニック	4	西東京中央総合病院	3
緑風荘病院	21	あかしあ脳外科	8	所沢中央病院	2	浅谷眼科	6
その他	5					計 282 件	

(5) 入院期間

日数	0～7	8～14	15～30	31～90	90～	合計
男	0	3	9	4	0	16
女	3	5	15	15	1	39
計	3	8	24	19	1	55

(6) 入院患者病名

肺炎（誤嚥性肺炎含む）（23人）、尿路感染症・腎盂腎炎（5人）、ほうかしきえん蜂窩織炎（4人）、心不全（3人）、食欲不振（3人）、脱水（3人）、嘔吐症（2人）、脳梗塞、心筋梗塞、慢性硬膜下血腫、胆嚢炎、膵臓がん、骨盤内膿瘍、急性腸炎、発熱、左大腿切断、敗血症、腸閉塞、精査目的（3人）

【行事】

(1) 実修行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
4月中	散歩	天気の良い日にホーム周辺を散歩し春の訪れを感じてもらう	ホーム内
5月3～5日	菖蒲湯	利用者の健康を願い季節を感じていただく	ホーム内
5月13日	母の日	カーネーションを贈呈し、記念写真を撮る。	ホーム内
5月26日	クレパス画教室	ボランティアによるクレパス画教室	ホーム内
6月17日	演芸会	御家族と共にボランティアによる歌や踊りなどの演目を楽しむ	ホーム内
7月1～7日	七夕	笹に願を込めて短冊を飾る	ホーム内
7月13～16日	盆供養	祭壇を飾り、迎え火・送り火を焚き供養する	1階玄関
8月13日	縁日	食堂でかき氷を作って食べる	ホーム内
8月23日	ビアガーデン (夏祭り)	夏の暑さを吹き飛ばす行事として屋上に数々の屋台を出店し、御家族と共に楽しむ。	ホーム1階
9月16日	敬老会	敬老の日をセレモニーや祝い膳などでお祝いする。	ホーム内
10月15日	綿菓子づくり	食堂で綿菓子を作って食べる	ホーム内
11月21日	ハワイアンダンス	ハワイアンダンスとバンド演奏を楽しむ	ホーム内
12月20-22日	ゆず湯	冬至にゆず湯に入り、健康を願う	ホーム内
12月23日	クリスマス 年忘れ会	無事に一年を終え、御家族と共に宴会を楽しむ。	ホーム内
1月1日	新年祝賀会	元旦をおせち料理で祝い、新しい年の幕開けを楽しむ	ホーム内
2月3日	節分	職員が鬼に扮して豆まきで福を呼ぶ。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、甘酒をおやつの時間に飲む	ホーム内

(2) 定例行事

利用者懇談会 毎月利用者の意見や要望を伺うと共に連絡の場として実施している。

クラブ活動 書道・華道・料理を実施し、ボランティアによるハーモニカ・朗読の会・お茶の会・各種楽器演奏を実施している。

- 理容・美容 毎月理容1回、美容2回地域の理容師により実施している。
- 嗜好品購入 生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。

3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉

(1) 実習生の受け入れ

学校名	日数	延べ人数	研修（実習）目的
白梅学園大学	35	35	介護実習
武蔵野美術大学	19	133	教員実習に伴う介護体験
東京医療保健大学	6	6	看護実習
小平市立第二中学校	6	30	体験学習
小平市立第五中学校	4	16	体験学習

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
寿々の会	衣類・タオルたたみ・話し相手・行事など
グループ宙	衣類・タオルたたみ・散歩・行事など
すずめの会	紙芝居・指人形・読み聴かせなど
あじさいの会	話し相手
愛子会	キーボードを演奏し、テンポの良い振付で、懐メロや唱歌を歌って下さる。（年3～4回実施）
個人	クラブ活動・話し相手・食事介助・そうじ・歌・ハーモニカ・理容・美容・買い物・お茶・絵手紙・書道・華道等

日常の業務を直接的、間接的に手伝って頂き大きな力になっている。積極的にボランティアを受け入れることで利用者の生活が拡大している。

(3) 地域福祉

学校名	内容
たかの台幼稚園	園児達が来園し歌や手遊びを披露し交流をする。
小平市立第十三小学校	小学校に出向き、学生と給食を食べながら交流する。

福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めている。

4. 各係

(1) 生活支援係

食事・入浴・排泄の三つの支援を包括的に担う係として今年度より開始したが、初めての試みであったことから、稼働するまでに係内メンバーが平均的に雑務を把握する事に時間を要し、年度目標の「総合的に検討する」ところまで至ることが出来なかった。

職員研修としては業者を招き、排泄時の陰部洗浄の研修を実施。日々の業務に役立てることができた。今年度は、何をして「安定した生活」を目指すかということ成形として残すことが出来なかったため、次年度も同じ目標で現場職員に働きかけていく。

(2) ケアプラン係

アセスメントを踏まえ“個々利用者に要する介護のポイント”を記載する、という意味では「個別性を重視した介護計画」作成を継続して行くことが出来た。またクラブ類の実施や買い物におけるニーズにも有志ボラの協力を概ね安定して得ることができ、施設環境におけるQOL維持の一助になったと考える。

新規入所者に対する“迅速なアセスメント&入所後1か月以内のプラン更新”は目標に及ばないながら、初回更新は【最長でも入所日から2か月目のスタート】を守ってくることができた(H31.1.21 新規入所ケースより、ひと月以内に初回更新実施)。

(3) 安全環境係

利用者の安全な生活を提供するために、職員に間で危険予測、事故予防、利用者の特性を理解させるリスクカンファレンスを定期的に行った。また職員の援助方法についての研修やOJT、作業療法士による具体的な援助方法の指導を仰ぐなど、介護過程や援助技術の強化を図った結果、下半期からは事故件数は減少した。

また離床センサーや立ち上がりセンサーを使用している入所者に対しては、危険リスクに対するアセスメントを1か月ごと実施し、適切な環境整備を行うことで事故予防に努めた。しかしながら、センサーの取り扱いについては意識付けに課題が残っており、職員全員でヒューマンエラーを無くすための意識付けができるよう、今後も働きかけていく。

(4) ボランティア係

今年度のボランティア感謝会は約50名の参加があり、実りある時間を過ごすことができ、畏敬の念を覚える他なかった。

また社協や地域と連携し、新規ボランティアの受け入れに努め、お茶の会や傾聴のボランティアを受入れた他、季節行事としては、4. 5. 7. 10. 11. 2. 3月にそれぞれ季節に合った行事や、歌や一芸のボランティアにも来て頂いた。

さらに利用者の余暇活動の面では、係を中心に実施した部分はあったが、次年度は、その活動を職員全員でできるように必用物品の用意、レクメニューの充実を図り、利用者の笑顔をもって引き出すために取り組んでいく。

(5) 実習生係

実習生の年間の受け入れに関しては、介護を志望する生徒が年々減少傾向にある。その影響から今年度は医療介護系の実習の学校は2校で、他は職場体験や教職実習と実習校自体の件数も減っている。係としては、生徒とコミュニケーションを多くとり実りある指導を心がけ、教職員や学校とも面談を重ね、福祉の仕事以外にも社会人・

職業人としての自立した社会の形成者として、自分の将来に向き合える機会を提供することはできたと実感している。

課題としては、実習生が働きたいと思える職場づくりである。介護人材が不足している中、実習という機会を通して小川ホームで働きたいと思ってもらうには、現場職員一人ひとりの立ち振る舞いや魅力ある職員の存在は大きいと考える。次年度はそういう職員を育てていけるよう既存の職員にも指導をしていきたい。

- ① 将来の介護職員の増員を目指すためには、現場職員の立ち振る舞い、利用者との関わり方を実習生が見てどう感じるのか実習生の思い描いている現場職員はいるのか。実習生のニーズに近い職員を育てていくこと・実習生のニーズを理解することが今後の課題である。

(6) サービスマナー係

「身体拘束等の適正化のための指針」の整備が不十分であったため定期的な研修が滞り、年度末に連続して行う結果となってしまった。高齢者虐待防止研修を通して「その人らしさ」を大切に適切なサービスが提供できるようOJT等で職員教育に努めてきたが、職員の声掛けや接し方に対し利用者やそのご家族から苦情があがった。不適切ケアとは何かを職員全員が理解して行動できるよう次年度も職員教育に努める。

(7) ショートステイ係

※ ショートステイ係は、短期入所生活介護事業報告欄を参照。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1526
たんぱく質 (g)	58.0	57.6
脂質 (g)	35.0	35.5
カルシウム (mg)	660	650
鉄 (mg)	6.2	7.9
ビタミンA (μ g)	680	656
ビタミンB1 (mg)	0.96	0.78
ビタミンB2 (mg)	1.14	0.84
ナイアシン (mg)	10.6	12.6
ビタミンC (mg)	100	97
食塩相当量 (g)	7.2以下	7.2

食物繊維	(g)	17.4	13.5
炭水化物エネルギー比	(%)	63.5	61.6
脂肪エネルギー比	(%)	21	21
蛋白質エネルギー比	(%)	15.5	15.4

給与栄養基準量		基準栄養量に対する 給与摂取量の比率	
エネルギー	1500 kcal	102%	
タンパク質	58 g	99%	
脂質	35 g	101%	

(平成 31 年 3 月分)

行事食メニュー (平成 30 年度)

月	日	行 事	献 立
4	3	桜祭り	桜ご飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、けんちん煮、小松菜のごま和え <間食>ねりきり(桜)
	6	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、かぶの海老あん、小松菜の磯和え
	7	赤飯の日	赤飯、味噌汁、さばの立田揚げ、かぼちゃの甘辛煮、浅漬け
	9	郷土料理の日	～沖縄県～ ジュシー、味噌汁、フーチャンプルー、かぼちゃの含め煮、シークワサーゼリー
	16	お楽しみ献立	ご飯、清汁、刺身(まぐろ、甘海老、サーモン)、かぶのそぼろあん、菜の花サラダ
5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン <間食>生菓子(鯉のぼり)
	7	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 <間食> キャラメルケーキ
	11	お楽しみ献立	ターメリックライスの魚介モルネソースかけ、コンソメスープ、カリフラワーのアボガドソース、ババロア
	15	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物
6	6	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	7	お楽しみ献立	ご飯、味噌汁、チキンカツ、チーズと野菜のサラダ、メロンムース
	10	父の日	散らし寿司、清汁、なめこ豆腐、あじさいゼリー (間) どら焼き
	17	運動会	<お弁当>太巻き、いなり寿司、から揚げ、えびフライ、マカロニグラタン、シューマイ、筑前煮、抹茶ようかん
	20	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれいの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物

7	2	郷土料理の日	～栃木県～ 五目飯、干瓢の玉子とじ（汁物）、焼き餃子、オクラの湯葉和え
	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー
	12	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、冬瓜のかにあんかけ、柚子水まんじゅう
	18	赤飯の日	赤飯、豚汁、ブリの照り焼き、里芋の煮付け、海老と三つ葉のみぞれ和え
	20	土用丑の日	うな井、清汁、夏野菜の炊き合わせ、小海老の酢の物
8	10	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、冷や汁、だし
	13	お楽しみ献立	枝豆と茗荷の生姜ご飯、清汁、フライ盛り合わせ、冬瓜の冷やし葛あん、抹茶水まんじゅう
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、角天の炊き合わせ、しその実和え
	23	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香り蒸し、炊き合わせ、胡瓜の酢の物
	23	ビアガーデン	やきそば、お好み焼、焼き鳥、もつ煮、ソフトクリーム、ビール、ジュース、流しそうめん
9	16	敬老の日	<松花堂弁当>赤飯、お吸い物（かまぼこ、三つ葉）前菜（青菜のきのこ和え、菊花と長芋の酢の物、蟹の重ね蒸し、厚焼き玉子、甘味（寿ねりきり）炊き合わせ（六角里芋、亀さつま芋、鶴人参、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物（鶏肉の野菜巻き）天ぷら抹茶塩添え（舞茸、ピーマン、海老）
	20	お楽しみ献立	五目寿司、きのこ汁、茄子の肉みそがけ、きなこプリン
	25	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
10	6	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、オレンジ
	10	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、筑前煮、酒まんじゅう
	22	お楽しみ献立	ご飯、コンソメスープ、チキンカツレツ、切干大根煮、浅漬け
11	1	赤飯の日	赤飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、炊き合わせ、もやしの和え物
	2	郷土料理の日	～京都府～ 大根菜飯、味噌汁、鮭の湯葉あんかけ、炊いたん、千枚漬け
	16	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、ピーナッツ和え
	18	お楽しみ献立	ねぎとろ井、清汁、厚揚げの五目煮、ほうれん草と菊花のお浸し
12	6	郷土料理の日	～東京都～ 深川井、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	13	赤飯の日	赤飯、清汁、鯖の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え
	17	年忘れ会	クリスマス弁当：太巻き、サラダ巻、サーモンの握り、チキンのたらこソース、海老とブロッコリーのフリッター、さつま芋のツリーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ コーンかき玉スープ

	24	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、鴨と卵のサラダ、ホワイトチョコムース
	31	年越しそば	ご飯、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、果物（りんご）、一口年越しそば、
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹、昆布巻 二の重：甘鯛の西京焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、サヨリの大根巻き 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、野菜しんじょう、椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや
	2	正月	ご飯、お雑煮風汁、鯖の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、オクラの梅肉和え
	3	正月	ねぎとろ丼、野菜汁、揚げだし豆腐、千枚漬け
	6	郷土料理の日	～北海道～ ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	11	赤飯の日	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子のそぼろあん、菜の花のお浸し
	15	お楽しみ献立	オムライス、クリームスープ、ポテトサラダ、果物
2	13	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鯖の立田揚げ、つみれと野菜の含め煮、ほうれん草の海苔和え
	3 (夕)	節分	福ご飯、味噌汁、節分焼き（いわしハンバーグ）、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	15	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、あんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	22	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かに豆腐、小松菜のピーナッツ和え
3	3	桃の節句	江戸散らし、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え（間食）さくら餅
	12	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	21	お楽しみ献立	鯛めし、清汁、炊き合わせ、浅漬け

短期入所生活介護 事業報告

運営概況

今年度の事業目標を「稼働率98%以上確保」と設定し取組んできたが、87.5%の達成率となった。特別養護老人ホーム同様、地域の方々に小川ホームの有する空床を、有効に活用して頂くことができなかった。

その主な原因としては、短期入所生活介護は特別養護老人ホーム併設であるため、その影響を直に受ける。特別養護老人ホームの重度虚弱化に対応するための体制の脆弱性を改善するために、人材の確保に効果的な働きかけと定着に向けた取り組み、チーム統制を取れるリーダー層の強化の必要性を強く感じている。

その他、当施設周辺には宿泊サービス事業所が充実しており、競争が激化している。特に短期入所生活介護を専門とする他事業の居住環境は、専門というだけあってハード面が充実していることから、他事業所を選ぶケースが増えている。そのため小川ホームは、緊急性の高い方や重度の方の受入れを積極的に行った結果、前年対比では稼働率20%以上上昇したことは評価できる。

今後は、在宅で生活している利用者が短期入所生活介護を利用しても、その在宅生活が継続できるような支援体制の構築に向けて取り組んでいきたい。

1、30年度月別利用実績

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数 (件)	31	29	22	22	31	24	20	22	30	29	23	22	305
	30	35	31	34	31	30	31	25	24	19	22	26	338
延べ人数 (件)	271	276	224	192	206	156	155	166	248	273	203	187	2,557
	145	171	142	168	164	187	162	115	135	125	193	229	1,936
1日当たり (人)	9.0	8.9	7.5	6.2	6.6	5.2	5.0	5.5	8.0	8.8	7.3	6.0	7.0
	4.8	5.5	4.7	5.4	5.3	6.2	5.2	3.8	4.4	4.0	6.9	7.4	5.3
月平均稼働 率(%)	112.9	111.2	93.3	77.4	83.0	65.0	62.5	66.9	100.0	110.0	90.6	75.4	87.5
	62.5	68.9	59.1	67.7	66.1	77.9	65.3	47.9	54.4	50.4	86.1	92.3	66.3

上段＝30年度 下段＝29年度

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男								0	0.0
	女								0	
	計								0	
65～74	男			1	2				3	18.2
	女					1			1	
	計			1	2	1			4	
75～84	男					1			1	22.7
	女			1	2		1		4	
	計			1	2	1	1		5	
85～94	男				1				1	31.8
	女				1	2		3	6	
	計				2	2		3	7	
95～	男								0	27.3
	女				5		1		6	
	計				5		1		6	
計	男	0	0	1	3	1	0	0	5	100
	女	0	0	1	8	3	2	3	17	
	計	0	0	2	11	4	2	3	22	

(平成31年3月分)

小川ホーム デイサービスセンター
事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

- ① 平成30年度も、法人の基本理念に沿って利用者の心を大切に、健全で安らかな生活を支えようという考えに基づき行動することができていたと思う。
- ② 中重度者の割合は、平成29年度平均31.7%に対して、平成30年度平均30.5%(-1.2%)今年度も加算が取れる平均30%以上となっている。加算算定を行っていない理由は、看護職員2名体制で運営しているが、希望休の取得、看護師1名の長期病欠があり、算定基準を満たせないことが原因となった。今年度も、特養看護職員との連携を取り対応している。来年度は、3名体制を整えていく必要がある。
- ③ 中重度の利用者が安心して過ごせる目配りができ、適切な判断で介護を提供できる技量については、ベテランから中堅職員は、もちろん、向上の余地はあるが、一定の対応が可能であると思う。今後、新人職員の資質向上を図る必要である。
- ④ 1日平均27名の目標に対して、平成29年度24.4名に対して、平成30年度25.4名(+1.0%)となった要因は、11月、12月にかけて新規利用者が6名受け入れることができたためである。しかし、1月～3月の減少は、体調不良による欠席者が多かったことが原因と考えられる。

また、新規利用相談の方に対して、兼務する生活相談員をケアワーカー業務から外す日を取るように勤務表の組み換えを行った。また、法人の支援体制により、常勤介護職員1名が、平成31年4月に「社会福祉主事資格」を取得することができた。このことから次年度は、生活相談員業務の対応力の向上面でスキルアップを図り、利用者の支援体制を豊かにして参りたいと考える。

また、次年度実施予定の緩和型デイサービスを開始後、通常型デイサービスの定員30名から、小平市独自基準の利用人数を除いて算定できるため、平均27名を達成するために、新規ご利用者へのサービス開始と、既存ご利用者の利用満足度の向上を行っていきたい。

また、他事業所の居宅事業所中心であるが、月1回の利用状況の報告を継続し、スムーズな情報共有、信頼関係の構築を図っていく。
- ⑤ 個別、またはグループの活動を通じて、楽しみや活力が得られることへの対策では、各職員が当日利用者の様子を察知し、レクリエーションのメニューを選択できるよう検討している。今後は、レクリエーションメニューも増やしていく必要があると考えている。
- ⑥ 今後も、必要とされている方々が、活動や参加につながるべく、生活機能の向上を図る働きかけを行って行く。
- ⑦ 研修計画については、チャレンジシート作成により個別の目標を作ることができた。同様にOJT研修を中心にスキルアップを行うことができた。
- ⑧ 緩和型デイサービスについては、既に職員を増員して対応の計画に着手しているが、12月の実地検査があり、対応に追われたこと、通所介護計画書の整備を勧める課題があり、総合事業を具体化するまでには至らなかった。平成31年度に実施予定で事業計画に記している。
- ⑨ キャリアパスについては、研修への参加率などが低いことが課題となっている。今後、研修への参加率が上がるような対策が必要と認識し準備している。

1、月別実績

	内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	予防	124	126	138	110	103	105	112	105	96	87	82	107	1,295
	介護	514	565	513	555	578	558	616	587	566	536	506	550	6,644
	計	638	691	651	665	681	663	728	692	662	623	588	657	7,939
	(29年度計)	622	682	675	648	670	623	638	644	603	587	579	671	7,642
新規	予防	1	3	3	1	0	1	0	0	1	0	0	4	14
	介護	0	2	1	0	1	2	0	1	4	2	0	0	13
	計	1	5	4	1	1	3	0	1	5	2	0	4	27
廃止	予防	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	5
	介護	0	0	1	4	3	1	1	0	1	2	2	2	17
	計	0	0	1	4	3	1	3	0	2	3	2	3	22
予防	運動機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	196	223	196	196	212	202	231	232	227	218	215	221	2,569
	入浴(機械)	97	95	89	99	95	82	93	82	75	67	70	75	1,019

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男								0	0.0
	女								0	
	計								0	
65～74	男			1	1				2	7.7
	女			1	2	2			5	
	計			2	3	2			7	
75～84	男			2	1		1		4	24.2
	女		2	8	3	2	2	1	18	
	計		2	10	4	2	3	1	22	

85～ 89	男	1	1	4		1			7	35.1
	女	1	8	8	4	1	1	2	25	
	計	2	9	12	4	2	1	2	32	
90～	男			1	1				2	33.0
	女	3	4	7	9	3	1	1	28	
	計	3	4	8	10	3	1	1	30	
計	男	1	1	8	3	1	1		15	100
	女	4	14	24	18	8	4	4	76	
	計	5	15	32	21	9	5	4	91	

(平成31年3月分)

3、移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	12	59	71
	介助	2	3	5
車椅子	自力	1	4	5
	介助	0	10	10
計		15	76	91

(平成31年3月分)

4、地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	6	6
小川町2	0	0	0
小川西町	8	36	44
小川東町	2	15	17
栄町	1	0	1
上水本町	1	1	2
学園西町	0	5	5
学園東町	0	0	0

仲町	0	0	0
津田町	1	10	11
たかの台	0	0	0
上水新町	0	1	1
東村山	0	4	4
東大和	0	0	0
計	13	78	91

(平成31年3月分)

行事

行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月6～11日(すいか割り)
場所	活動室
参加人数	152名(延べ利用者、職員)
行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8月13～19日(かき氷)
場所	活動室
参加人数	153名(延べ利用者、職員)
行事名	夏祭り(ビアガーデン)
日程	8月23日
場所	デイサービス活動室
参加人数	利用者17名 家族9名
行事名	忘年会
日程	12月22～28日
場所	小川ホーム活動室
参加人数	118名(延べ利用者、職員)
行事名	初詣
日程	1月7～12日
場所	小平神明宮
参加人数	46名

小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

運営概況

平成30年度の事業目標「稼働時間月平均1、200時間以上実施」を設定したが、平均1,046時間と前年度と同じく達成できなかった。

その主な原因としては、毎日訪問介護を利用されていた利用者や家族が、在宅での生活に不安を感じ施設を希望し入所されたり、体調を崩されて入院、その後ショートステイを長期利用された後に自宅には戻られずに施設入所されるケースが多く見られ、同時にヘルパーの慢性的な人材不足も挙げられる。

この一年間で受け付けた新規依頼は44件と前年度の31件を上回ったが、内訳が要介護21件・要支援23件となり、訪問回数の少ない要支援の利用者からの依頼が多くなったためと、生活援助のみ利用される場合の回数制限が稼働時間減少に繋がっていると思われる。

今後も継続して「特定事業者加算Ⅰ」の加算を算定していくためには、重度（要介護4及び5、日常生活認知度Ⅲa以上）の利用者を多く受け入れていく必要性があり、人材確保のためにヘルパー養成事業や、新しい雇用形態の創設などを検討していく必要性を強く感じている。一方では非常勤ヘルパーの高年齢化も進み、両親の介護や孫の世話、体力的に身体介護が負担となり生活援助中心になってきている現状を踏まえ、業務報告会の定期開催をヘルパーの負担軽減と、高密度な会議への参加率向上の為、令和元年5月より月1回（毎月最終火曜日）17:30～19:30に変更する事とした。

総合事業（旧国基準・小平独自基準）への振り分けがどの程度になるのか、同時にどのくらいの減収につながるのか経過を見てきたが、本格的な移行がまだされていない現状では、今後の動向にも十分対応していけるような生活サポーターの人材確保、及び育成に努めて行く必要がある。

3年に1度の改正を行う介護保険、2021年の改正に向け早くもキックオフされた。高齢者人口がピークをほぼ迎え、団塊ジュニアが高齢者になる2040年までに、介護が要らない健康寿命を3年間延ばす目標を社会保障審議会介護保険部が設定した。

元気な高齢者が増える事は良いことだが、支援が必要な高齢者も増え、その生活を支えるためには訪問介護の役割も増えて行くと思われる。

1、月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	117	119	119	118	115	110	110
延べ人数	1,164	1,264	1,205	1,176	1,223	1,083	1,145
1日当り	38.8	40.8	40.2	37.9	39.5	36.1	36.9
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※29年度
件数	108	109	108	104	100	1,337	1,424
延べ人数	1,065	1,032	947	882	931	13,117	16,202
1日当り	35.5	33.3	30.5	31.5	30.0	35.9	44.4

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業 対象	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	構成 比%
～64	男									0	0.0
	女									0	
	計									0	
65～ 74	男	1		1	4	1				7	13.0
	女			2	3	1				6	
	計	1		3	7	2				13	
75～ 84	男	1	2	2	1	2				8	35.0
	女	1	5	7	5	5	1	3		27	
	計	2	7	9	6	7	1	3		35	
85～ 89	男			3	4					7	34.0
	女		7	8	4	3	2	1	2	27	
	計		7	11	8	3	2	1	2	34	
90～	男		1	1	2	1		1		6	18.0
	女		1	3	3	4	1			12	
	計		2	4	5	5	1	1		18	
計	男	2	3	7	11	4	0	1	0	28	100
	女	1	13	20	15	13	4	4	2	72	
	計	3	16	27	26	17	4	5	2	100	

(平成31年3月分)

3、地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	28	72	100
他市	0	0	0
計	28	72	100

(平成31年3月分)

4、サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
訪問型サービスⅣ	月 1 回～ 4 回	21	81	89.7
訪問型サービスⅤ	月 4 回～ 8 回	7	54	52.4
訪問型サービスⅥ	月 9 回～ 1 2 回	1	12	12.0
訪問型サービスⅠ	月 5 回以上	5	25	20.8
訪問型サービスⅡ	月 9 回以上	8	66	66.3
訪問型サービスⅢ	月 1 3 回以上	4	52	53.3
訪問型サービスⅣ/2	月 1 回～ 4 回 (緩和型)	1	3	3.3
身体介護 1	3 0 分未満	9	135	65.2
身体介護 2	3 0 分以上 1 時間未満	13	65	62.6
身体介護 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	4	27	38.8
身体介護 4	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1	3 0 分以上 1 時間未満	6	58	57.8
身体 1 生活 2	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	1	3	4.5
身体 1 生活 3	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 1	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	2	2	3.0
身体 2 生活 2	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	1	1	2.0
身体 2 生活 3	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 1	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	1	5	10.0
身体 3 生活 2	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 3	2 時間 3 0 分以上 3 時間未満	0	0	0.0
身体 1 夜	3 0 分未満	1	9	4.3
身体 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	3 0 分以上 1 時間未満	15	100	61.0
生活援助 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	35	233	234.4
生活援助 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 3 夜	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
合 計		135	931	841.4

(平成 3 1 年 3 月分)

小川ホーム 介護計画センター 事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

- (1)居宅介護支援(Ⅰ)の基準を維持する。
取扱件数40件未満を満たすことができた。
- (2)特定事業所加算(Ⅰ)または(Ⅱ)の基準を維持する。
算定要件の⑤「要介護3～5の割合が40%以上」について、月26～29%の割合となり(Ⅰ)の算定要件に満たなかった。(Ⅱ)を保つことができた。
- (3)認知症高齢者と中重度の要介護高齢者が安心して生活できるよう、地域でのケアマネジャーの役割を担う。
地域包括支援センターから依頼のあった困難ケース(認知症で独居、支援者が不在など)に迅速に対応した。
 - ・昨年の猛暑中、エアコンの設置の支援。
 - ・生活福祉課と協力し、有料老人ホームの入所を支援。など
- (4)現状のニーズを把握し、地域ニーズに即した介護サービスの展開をして行く。
日々のアセスメントやモニタリングにより、当事者のニーズの把握は行えたが、当該地域特有の地域ニーズの分析までは至らなかった。
- (5)地域においてより良いサービスを提供する為に、必要な加算を算定できるように事業展開する。
初回加算 51件
特定事業所加算Ⅱ 2,853件
入院時情報連携加算Ⅰ 32件・Ⅱ 16件
退院退所加算Ⅰ 1 4件
退院退所加算Ⅰ 2 8件
退院退所加算Ⅱ 1 1件
退院退所加算Ⅱ 2 2件
小規模多機能型居宅介護事業所連携加算、看護小規模多機能型居宅介護支援事業所連携加算、緊急時等居宅カンファレンス加算、ターミナルケアマネジメント加算の該当事例は無かった。
- (6)介護支援専門員実務研修における「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力、または協力体制を確保していく。
実習受入実績：平成30年5月22日・23日・25日 1名
平成30年6月 8日・11日・12日 1名
平成31年2月11日・12日・13日 1名
実習受入事業所として東京都福祉保険財団に連絡をし、協力体制を確保している。
- (7)主任介護支援専門員の役割を認識し、地域包括支援センターの主任介護支援専門員と、連携、協力、協働しながら、地域のケアマネジャーに対してスーパービジョン(アセスメント力、質問力、気づきの提供等)を行い支援していく。また、困難ケースにおいて

も適切に対応できる体制を整えて行く。

小平市ケアプラン点検事業・ケアプラン指導研修事業に、主任介護支援専門員2名が指導的役割として参加。地域包括支援センターの主任介護支援専門員と協働で、市内の介護支援専門員のケアマネジメントの支援を行った。前期1名、後期2名。

困難ケースへの対応については、毎週行うミーティングにおいて月1回集中的に事例検討を行い、対応策を研鑽した。

(8) 平時からのからの医療機関との連携促進及び入退院時において更なる医療機関との連携促進により、医療と介護の連携を図る。

入院時には、北多摩北部保健医療圏共通様式の地域連携情報シートを使用し、入院機関に利用者の情報の提供(承諾を得たもの)とケアマネジャーの連絡先を伝え、連携を図った。入院時情報連携加算は計48件。

退院時においては、退院調整看護師や医療相談員と連絡を取り合い、退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の利用者の生活について連携を行った。退院退所加算は計15件。

在宅医療介護連携推進協議会主催の在宅ケアコラボ研修に参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深めた。

その他

外部研修として、小平市内のケアマネジャーの横のつながりや専門職としての技能を研鑽し合うことを目的とする『小平ケアマネ連絡会』の研修に参加した。

事業所内研修としては、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで、ケアマネジメント技術の向上に努めた。

区市より依頼された要介護認定訪問調査を行った。小平市143件、練馬区2件、北区2件、西東京市2件、以下は各一件で品川区・杉並区・北海道釧路市・千葉県千葉市花見川区・千葉県野田市・愛知県東三河広域連合。

計157件

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	251	245	240	245	243	238	233
内受託	2	2	2	1	1	0	0
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※29年度
件数	231	238	236	229	228	2,857	2,986
内受託	0	0	0	0	0	8	18

2. 要介護度別分類

3. 年齢	性	支援1	支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
～59	男								0
	女								0
	計								0
60～64	男						1		1
	女						1		1
	計						2		2
65～69	男			4	1				5
	女			2	3	1	1		7
	計			6	4	1	1		12
70～74	男			2	3	1		1	7
	女			4	3	3		2	12
	計			6	6	4		3	19
75～79	男			3	5				8
	女			4	2	3	2	2	13
	計			7	7	3	2	2	21
80～84	男			12	3	2	2		19
	女			19	9	4	2	1	35
	計			31	12	6	4	1	54
85～89	男			13	4	6		1	24
	女			18	8	5	2	3	36
	計			31	12	11	2	4	60
90～	男			4	4	2	2		12
	女			14	23	6	3	2	48
	計			18	27	8	5	2	60
合計	男	0	0	38	20	11	5	2	76
	女	0	0	61	48	22	11	10	152
	計	0	0	99	68	33	16	12	228

(平成31年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	76	151	227
東村山市	0	1	1
計	76	152	228

(平成31年3月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

小平市のに基づいて重点項目（事業目標）を中心に業務を遂行してきた。

地域包括支援センター(以下「センター」)には、地域を作る使命がある。特に地域作りについては事業方針の中で、幾つかの項目にまたがって重点目標にあがっていた。

○生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの活動について

地域包括ケアシステムの構築が叫ばれている近年、地域作りの仕組みの構築が必要であり、小平市でも着々とその歩みを進めている。

厚生労働省 生活支援体制整備事業で創設された第2層協議会(以下「第2層」)の生活支援コーディネーターが中心になって、小平中央西圏域内の地域作りを進めてきた。様々な学習会に参加し企画しながら、今年度は小川西町地区の第2層の協議会の立ち上げを行い、地域の民生委員、見守りボランティア等、住民の代表者に参加メンバーとなって頂き活動を行った。そこで、地域になじみやすい名称として、「誰もが住みやすい小川西町を考える会・みらい」に決定した。今後もこれらの活躍により、一層小川西町の地域作りが前進していく事だと思ふ。この西町地区での先行事例を元に、次の地域、小川東町地区でも㈱ブリヂストンに協力をお願いし、立ち上げを検討している。

今後、上水本町、津田町・学園西町での第2層の協議会の立ち上げを検討しており、小平市第三地区の民生委員にも協力を願ひ、地域ケア会議の開催・学習会を重ねて協議会の立ち上げにつなげていきたい。

○介護予防見守りボランティアの積極的な活用とライフサポーター養成研修の関わり及び、

地域におけるインフォーマルサービスの開発と積極的な活用について

見守りボランティアは3月現在89名の登録者がいる。前年度からすると、微増傾向であった。見守りボランティアの交流会のテーマとしては、「自分の町をもっとよく知って情報発信をする」「認知症の方を地域で見守っていく」ために、をテーマとして交流会の企画運営をしてきた。認知症の事を学んだり、それを実践したりするために、小平市の認知症週間において(小川ホーム割当て分であった)、徘徊声掛け模擬訓練にもこの登録者が見守りボランティアとして参加した。

見守りボランティアは、地域活動の中心になる傾向が高く、介護予防リーダーや認知症支援リーダーは第2層協議会において貴重な人材であり、その役割を担っている。見守りボランティアとしての通報相談件数は15件あり、少しずつ増えてきており、センターとの連携が進んできている証とも言える。

今後は、認知症支援リーダーや介護予防リーダーにも参画する機会を多く設けた上で役割を担って頂き、活躍の場として協議会のみならず、第二第三の認知症カフェ(にこにこカフェ)や、サロンを住民の方と一緒に関わりながら創設していければ良いと考える。ただし、住民主体で始めるサロンにおいての運営に関わる支援は、どこまで関わるのか、関わり方等・支援には課題も残っている。

○総合相談支援業務及び権利擁護事業について

センターの知名度が広まる中で、本人や家族だけでなく、地域のケアマネジャーからの相談や、医療機関・障害や他の制度にまたがる相談まであり、40～45件/月で推移している。総合相談の主な内容は認知症、ガン末期、精神疾患、多問題家族、ゴミ屋敷問題、権利擁護（虐待・消費者被害）問題等である。

また、昨今話題にもなっている8050問題の相談も加わり、多岐に渡り顕在化している。相談にかなりの時間を割いており、行政や他機関との連携が数多く必要となった。今後もこの課題は、社会問題として・家族の一つの在り方として頻出の可能性はある。

○包括的・継続的ケアマネジメント業務について

地域のケアマネジャーに対しては、日常的な個別支援や困難事例への指導や助言はもとより、多職種連携及び介護支援専門員のネットワークの支援や研修の企画と運営を行った。同時に、居宅の主任ケアマネジャーと連携・協働しながら、今年度も「リ・アセスメントシート」により、ケアプラン作成についての研修を行った。

地域ケア会議の進め方も変化があり、介護予防に資するケアプランの検討では、大腿部頸部骨折の高齢者のケアプランについて、市の職員や包括支援センターの三職種（社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員）に加え、管理栄養士、理学療法士の多職種で検討をした。このことから、4事例のケアプランの見直しや考え方の新たな発見につながった。

厚生労働省から提示された課題でもあった、生活援助の訪問回数が多いケアプランについて市がピックアップした2件の事例・個別ケースについて、今年度は初めて個別の地域ケア会議の中で検討を行った。目的としてはケアマネ個人のケアプランについて責めるのでは決してなく、自立支援に資するケアマネジメントの実践力向上と個別課題の解決ができるように事例の検討を行った。

○介護予防ケアマネジメント業務・第1号介護予防支援事業について

概ね自前ケースが460件前後と委託ケースは90件前後と推移している。委託事業所も年度の後半にかけて増えてきたが、まだまだ要支援のケースを受け持ってくれる事業所は少数であり、委託する事に苦勞を要した。

○家族介護教室においては、地域のニーズや課題を勘案しつつ「笑いヨガ」「下肢静脈瘤は予防が大切」についてを開催した。

○認知症サポーター養成講座においても定期開催しつつ、地域の要請に応じて今年度は国立精神神経医療研究センター病院やマンションの自治会、ゴミの回収業者、小川西町公民館、デイサービス、地域の自治会（小川東町）に向けて、認知症サポーター養成講座の開催を行った。

○行事関係で地域に発信しているものについて

認知症カフェ（おれんじカフェ小川）は毎月開催している。ここでは、認知症の方やその家族の交流の場としている（認知症家族支援会わかばの会にも参加協力）。特に認知症の方と一緒に作るおやつ作りは好評で、それぞれ各自のできるところで共に行い最後に食べて頂くことで、利用者の笑顔が見られている。ただし送迎がない為、オレンジカフェに来てもら

いたいが来られない認知症の方には、認知症リーダーにも協力してもらい、利用者の送迎もお願いした。家族の参加という面では、参加が少ないので今後の課題でもある。

サロンは毎週開催（認知症カフェ開催日以外）している。体操やアロマ、脳トレ、カラオケ等のメニューを中心に行った。平均参加者20名と今年度も地域住民の憩いの場として定着してきた。このように、認知症カフェ（おれんじカフェ）やサロンにおいて、認知症支援リーダーや介護予防リーダー、ボランティアの方の協力も必要不可欠になりつつある。圏域内の地域作りをより一層進めてきた一年となった。

介護予防講座は、㈱ブリヂストンのインストラクターに月1回依頼し、仲宿地域センターと学園西町地域センターで介護予防の促進、地域の仲間作りの目的として開催した。ここではインストラクターによる指導だけでなく、今年度は介護予防リーダーには、小平市が作成した「いきらく体操」を実践して頂いており、リーダーが活躍する場としても会の開催ができるようになった。

○認知症相談会（物忘れ相談会）について

看護師が中心となり「認知症に関するミニ講座や物忘れ度チェック」を、国立精神神経医療研究センター病院の医師や基幹型包括にも協力して頂きながら実施し、17名の参加があった。早期に専門医に相談できる場として開催できた。

○地域包括支援センターの機能強化を図る

人事では今年度も人員の増配置を行い機能強化を図った。法人内部からの人事異動を行い、対応力向上に繋がる人材が入った事は、年々相談の増加する包括支援センターには大きな原動力となった。

今まで同様に、医療と介護との多職種連携事業（研修）も含め、行政や地域との会議運営に多くの時間を掛けて連携を深めてきた。小平市版の地域包括ケアシステムが成熟してきたと言える。

その他、外部諸団体の会議（全国社会福祉協議会の各種委員会や東京都高齢者福祉部会の各種委員会）にも参加し、有益な情報収集を行った。

次年度においても個々の研修ニーズや課題を把握し、センター職員各々のスキルアップを更に進めて行きながら、小川ホームが地域の中核機関として近隣住民から信頼され、必要不可欠な存在として機能し続けて行きたい。

1、 ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	457	479	473	463	465	468	475
内委託	69	73	74	77	79	84	87
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※29年度
件数	468	471	478	476	460	5,633	5,385
内委託	93	94	96	100	99	1,025	831

2、 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
事業									3		1				2	0	6	6	
支援1	1	1			2	3	5	11	8	15	11	40	13	40	5	18	45	128	173
支援2		2	2		6	6	12	8	12	21	22	52	25	67	13	33	92	189	281
合計	1	3	2	0	8	9	17	19	20	39	33	93	38	107	18	53	137	323	460

平成31年3月31日現在

3、 相談実績

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
	当月相談者数	203	197	189	208	173	176	273	302	235	237	236	295	2099	
	当月内訳	新規相談者	45	26	28	31	30	28	50	61	27	42	27	41	442
		継続相談者	158	171	161	177	143	148	223	236	208	195	209	254	1654
相談内訳	自立支援サービス	給食サービス	4	0	1	4	4	2	6	10	1	6	4	2	44
		住宅改修	10	10	4	4	4	2	11	8	3	7	3	12	78
		福祉用具	12	8	11	7	8	6	10	13	4	12	6	15	112
		緊急通報・火災安全システム	0	1	2	0	1	3	0	2	0	1	0	2	12
		おむつ支給等事業	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
		高齢者見守り事業	8	18	17	16	15	17	17	8	7	10	14	11	158
		その他自立支援サービス等	0	1	2	1	4	5	1	3	0	1	5	3	22
	介護保険	施設サービス	18	14	15	21	18	14	17	26	24	22	9	20	218
		在宅サービス	87	106	68	90	69	75	107	118	68	90	82	124	1084
		地域密着サービス	2	1	1	0	1	0	1	3	6	3	0	1	19
ケアマネ・ケアプランの相談		28	26	23	30	25	28	39	51	45	38	38	52	423	
申請等の相談		37	39	47	45	44	40	56	73	41	48	44	75	589	

介護予防・生活支援	訪問型サービス	8	7	13	16	11	10	17	9	10	10	7	7	125
	通所型サービス	13	9	7	23	15	12	21	14	18	12	11	15	170
一般介護予防事業	ADL・IADLに関する相談	8	8	5	11	6	7	17	8	3	12	12	8	105
	社会参加に関する相談	3	6	5	9	6	10	4	5	5	7	8	9	77
認知症に関する相談	症状・生活に関する相談	16	23	15	23	9	14	30	43	21	29	11	32	266
	受診・治療・服薬に関する相談	7	16	10	14	7	8	21	8	14	25	9	11	147
	上記以外の相談	3	4	5	8	2	0	4	3	5	1	0	2	37
権利擁護	地域福祉権利擁護	8	1	05	0	0	1	8	3	5	1	2	6	41
	成年後見	9	9	12	1	6	6	10	7	6	13	6	13	139
	高齢者虐待	0	0	1	2	1	0	3	3	7	1	1	5	24
	消費者相談	2	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	8
その他	苦情	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	安否確認・緊急対応	10	4	4	7	3	1	7	13	13	12	4	16	94
	住環境に関する相談	6	5	9	7	5	5	9	6	3	6	4	21	86
	生活困窮者に関する相談	1	5	1	1	2	2	2	3	3	2	3	13	38
	緊急医療情報キットに関する相談	2	1	1	1	0	1	2	0	1	0	0	1	10
	医療関係	18	15	15	28	26	15	24	45	40	37	46	54	363
	他制度の相談	2	6	2	4	3	1	2	9	1	2	4	2	38
	上記以外の相談	3	2	3	1	2	1	4	11	11	0	6	3	47

相談件数（件）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	63	63	67	62	60	69	68	68	58	54	60	56	758
		予防ケアプラン作成委託	12	11	13	12	13	10	12	12	15	10	11	10	141
		ケアプラン作成委託事業者数（3月31日現在の数）	12	10	12	11	11	9	12	12	15	14	13	10	141
	要支援2	予防ケアプラン作成	122	125	121	120	106	118	120	121	126	128	125	124	1456
		予防ケアプラン作成委託	25	29	30	32	28	34	39	41	39	41	44	43	425
		ケアプラン作成委託事業者数（3月現在）	23	22	26	26	22	30	29	36	34	35	37	36	356
		セルフケアプラン作成件数	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4
介護予防日常生活支援事業	事業対象者	ケアプランA	23	25	21	19	21	19	16	13	36	10	7	7	189
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	15	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	要支援1	ケアプランA	86	91	78	83	81	84	91	87	95	90	88	92	1046
		ケアプランB	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	13	13	15	15	13	16	17	18	14	18	16	16	184
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	12	14	16	14	13	18	17	16	14	18	18	16	186
	要支援2	ケアプランA	96	100	98	97	89	91	88	87	79	86	93	87	1091
		ケアプランB	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	8
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	12	17	13	14	15	18	17	21	24	23	26	28	228
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	15	14	10	11	12	14	21	20	17	21	21	23	199

ケアマネ業務	事業対象者	26	13	12	9	16	6	28	21	6	3	4	7	151
	要支援1	225	341	294	325	275	171	357	276	213	248	266	292	3283
	要支援2	352	446	460	417	335	280	479	385	379	446	367	421	4767
	申請中・退院調整等	10	10	8	7	1	10	20	52	19	18	6	7	168
	サービス担当者会議・ケース会議	60	55	56	53	48	30	41	47	48	46	45	41	570
介護保険申請件数		68	78	86	65	67	62	82	69	63	60	50	87	837
事業対象者 基本チェックリスト実施		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
実態把握に関する対応		2	1	0	0	1	0	0	0	1	4	77	12	98
ホスピタリティ事業 包括的・継続的ケアプラン	ケアプラン作成指導・ 個別指導・相談	0	1	3	0	0	0	3	8	3	4	10	9	41
	困難事例への指導助言	1	4	2	0	2	3	3	15	11	3	6	7	57
	サービス担当者会議・ ケース会議	3	3	2	4	1	0	1	0	0	1	0	1	16
地域ケア会議	地域ケア会議 <個別ケース検討>	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	地域ケア会議 <地域課題検討>	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

令和元年6月18日

東京都小平市小川西町2-35-2

社会福祉法人緑友会

理事長 菅野徹夫